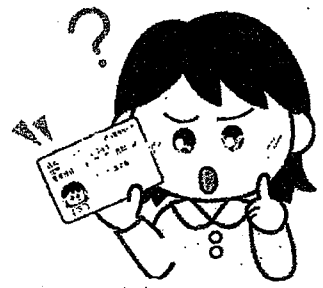


# みどりの風 NO.24

発行・編集責任(緑風会会長 大矢正明)

## 続・マイナンバー保険証問題 マイナ保険証は5年更新 「無保険者」続出の恐れ



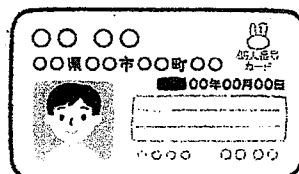
経済ジャーナリスト萩原博子氏は次ように語ります……

わざわざ暗証番号をメモして持参しろとでも言うのでしょうか。高齢者は暗証番号を忘れてしまう可能性があるし、例えば介護施設などの入所者は自身で更新できない場合もある。施設側が数十人のカードや暗証番号をどうやって管理できるのでしょうか。高齢者はとりわけ健康保険証が必要なのに、全く優しくない制度です。高齢者は手続きの煩雑さゆえに脱落してしまいかねず、若い人は『どうせ、あまり病院へ行かないから』と、無保険状態のままいるかもしれない。マイナ保険証の更新時期に『無保険者』が続出する恐れがあります。

本来カード取得は任意だったはずが、保険証の廃止で取得を強制され、取得しないと手間を負わされる。国民皆保険制度の破壊と言わざるを得ません(「日刊ゲンダイ」より)

### 新聞記事より拾う マイナンバーカードによるトラブル実例

- ▼夫婦の保険情報が逆さまになっていた
- ▼患者の全く見覚えのない住所が登録されていた
- ▼別人の障害者手帳情報をひも付け
- ▼保険証の変更など何も無いのに、半年ほど「無保険」の扱いになっている人がいる
- ▼別人の保険証情報が誤登録された
- ▼マイナンバーカードで受診したところ、資格情報が確認できず



医療費を10割負担することになった等々

以上、一連の誤登録は、紙の保険証では起きようもないことがマイナンバーカードでは起こっています。

紙の健康保険証は、国保なら自宅に郵送されます。健康保険では職場を介して本人の手元に届きます。その時、名前などが間違いないか、本人が確認できます。それに対して、マイナンバー紐づけは、健保組合など医療保険者で作業しています。特定の人の資格情報を間違いなく結び付けるのは至難の業です。しかも、本人が確認できるのは、マイカードを機械にかざした時というのも事態を深刻にしている。